

道場に舞う蝶を知っていますか？

武田 大雄

みなさんは道場の中で舞う蝶を見たことがありますか？

何かの拍子に、舞い込んできてしまうこともあるかもしれませんが、その蝶は毎回決まって、そこに現れるのです。

1996年、我々 A.K.I. (当時はまだ湘南合気道連盟でしたが) の恩師・顧問師範でいらっしゃいます、山口清吾先生が他界された年に、鶴岡八幡宮研修道場にて追悼演武大会が開催されました。連盟挙げてのエネルギーに満ちた演武会であったと記憶しています。諸先生方の演武の最後に、武田義信師範が演武を奉納され始めたその瞬間、演武中の師範の頭上に、何処からともなく現れた1匹の蝶が舞い始めたのです。恩師・山口先生へ奉げる師範の気迫に導かれたのでしょうか。その蝶は、武田師範の力強く、かつ流麗な動きに合わせるかのように、実に優雅に『演舞』していました。

残念ながらその後、数年間はあまり気に留めていなかったためか、蝶に関する記憶は薄いのですが、最近の4～5年の間には、八幡宮においてのみならず数多くの演武会会場で確認しています。それも、決まって武田師範の演武に合わせて姿を現すので、『きっと、山口先生が姿を変えて来てくださっているのだろう』と、この話を知る人の間では信じられています。



山口清吾師範追悼演武大会 (1996年)
植芝吉祥丸二代目道主、守央現道主も御出演



山口清吾師範講習会 (合気会本部道場)

中列: 左から三人目 安野正敏 現合気会本部師範、クリスチャン・ティ
シェ師範 (フランス) 右から四人目 甲野義紀氏
前列: 中央 山口清吾 合気会本部師範 右側 武田師範

東洋思想の『気学』によると、蝶は『飛躍／飛翔』あるいは『ステージが上がる』『志を上げる』といった意味の象徴だそうです。(余談ですが、AKI会長の石尚子先生の愛用する『トンボ』も同様の意味を持ちます) 本年現われたのは、黒いアゲハ蝶でしたが、黒は『根深い真理』『愛』を表します。

視点が変わりますが、十二支には深い意味があり、昨年は『丑』の年。『牛』ではなく『紐』が語源で、12年に一度、人々の絆を深めたり、新旧の出会いを結びつけるに機運という意味合いがあります。

A.K.I.においても、新会員・横浜市合気道連盟・ロシア・その他の会など、多くのことが思い出されます。また、

本年は『寅』年、何かを『演』じるが語源で、まさに AKI 本部と八幡宮の記念行事や海外道場から、大勢の合気道家があつまり、秋にはオーストラリア 30 周年記念と、大きなイベントを演出するに相応しい1年となりそうです。

この蝶が示す天啓を、気運が高まる寅の年に乗じて我々一人ひとりの飛躍に活かすと共に、この素晴らしい合気道精神がより多くの人々へ拡がること、そして身近な家族から地球の裏側の人々まで皆が仲良く平和に触れ合っている世界ができると願いたいものです。次の演武会で蝶を見かけたら、それはきっと、何か暖かい、我々へのメッセージだと思います。

(気の学問より一部抜粋)